

野村未来トレンド発見ファンド Bコース（為替ヘッジなし）

ご参考資料 | 2021年2月1日

愛称：先見の明



モーニングスター “ファンド オブ ザ イヤー 2020” 『優秀ファンド賞』 受賞

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、弊社が運用する「野村未来トレンド発見ファンド Bコース（為替ヘッジなし）愛称：先見の明」が、モーニングスター“ファンド オブ ザ イヤー 2020”の国際株式型（特定地域）部門（対象ファンド数：718本、2020年12月末時点）において、『優秀ファンド賞』を受賞しました。昨年の『優秀ファンド賞』に続き、2年連続の受賞となります。



『優秀ファンド賞』受賞

国際株式型（特定地域）部門



当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2020年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国際株式型（特定地域）部門は、2020年12月末において当該部門に属するファンド718本の中から選考されました。

弊社におきましては、今後も今回の受賞に応えるべく一層の努力をしておりますので、引き続き「野村未来トレンド発見ファンドBコース（為替ヘッジなし）愛称：先見の明」をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

Morningstar Award “Fund of the Year 2020”は過去の情報に基づきものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

上記は過去の一定期間の実績が評価されたものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

ポイント



1. 2020年の振り返り① <市場編>
2. 2020年の振り返り② <ファンド編>
3. 足元の運用状況 ～投資配分の機動的な変更など～

1. 2020年の振り返り① <市場編>

2020年は“激動”の年

2020年は、いわゆるコロナショックに揺れた1年でした。人々の接触が忌避され、家庭生活や労働環境など、これまで行なってきた行動様式の継続が不可能となり、社会生活の変容を迫られました。経済環境においても、企業利益の先行きが極めて不透明となり、一部企業で資金繰り懸念が急速に台頭、米国株もS&P500株価指数が一時2,200ポイント近くまで、急落しました。その後、各国中央銀行による流動性供給により、信用不安が急速に低下、経済活動も徐々に再開し、株価もV字回復を遂げました。

また、2020年11月には、米国大統領選が行なわれました。バイデン氏の当選は大方の予想に沿った形であったものの、民主党が上院選の過半数を取れない公算が高まり※、いわゆるトリプルブルー期待が低下しました。その後のワクチン開発報道で経済再開期待が高まったこともあり、長期金利は乱高下、株式市場も、物色対象が目まぐるしく入れ替わる展開となりました。

※その後2021年に入り、結果として民主党が事実上の多数派となりました。

このような“目まぐるしく激変する”相場環境の中、先見の明（Bコース）は昨年世界株式指数を14.5%上回るパフォーマンスとなりました。要因は大きく分けて2つ考えられます（次頁に続く）。

S&P500株価指数とEPSの推移



先見の明（Bコース）の基準価額の推移



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

2. 2020年の振り返り② <ファンド編>

大きく2つの要因により、アウトパフォーム

まず要因の一つ目としては、コロナ禍を生き残れる蓋然性の高い、すなわち利益率やバランスシートの健全性が高く、参入障壁の高いビジネスモデルを有する企業を大きく保有したことが挙げられます。

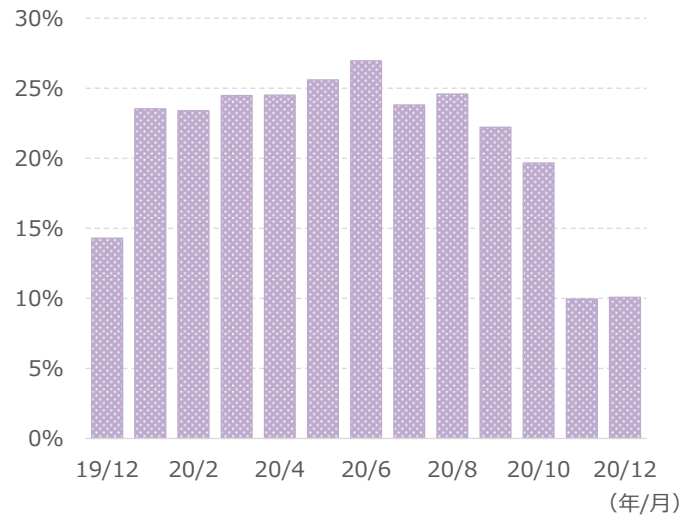
具体的には大手ソフトウェア企業などであり、これらの企業は景気に左右されにくく、潤沢なキャッシュフローを生み出すのが特徴です。ファンドの成長テーマで言えば「AI/クラウドサービス」に属する銘柄が多く、これらの銘柄群は、年間を通じパフォーマンスに貢献する結果となりました。

もう一つの要因としては、独自の成長ストーリーを持つ銘柄を保有したことが挙げられます。例えば

- ・「**教育/働き方改革**」に所属する銘柄の中からは、中長期の生産性向上に寄与する、ビデオ会議システムを提供する銘柄
- ・「**アウトソーシング**」からは、米国の小規模EC（電子商取引）事業者の税務処理を円滑化するシステムを提供する銘柄
- ・「**消費の多様化**」からは、米国では家族同然に扱われることの多いペットへの支出増加の恩恵を受ける、ペットフードを製造する銘柄

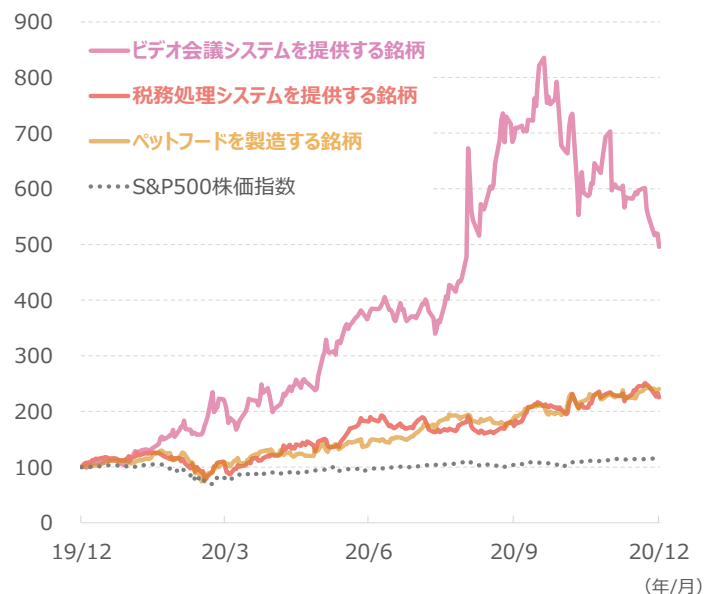
などです。これらの銘柄が、パフォーマンスに寄与しました。当ファンドは様々な成長テーマから銘柄を発掘・調査を行なうという、他ファンドに類を見ないユニークな運用スタイルを有しておりますが、2020年につきましても引き続き、当コンセプトが高パフォーマンスにつながったものと考えております。

Bコースの「AI/クラウドサービス」
投資配分比率の推移



期間：2019年12月末～2020年12月末、月次
上記はマザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

パフォーマンスに寄与した銘柄の株価の推移



期間：2019年12月末～2020年12月末、日次
2019年12月末を100として指数化
(出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

3. 足元の運用状況 ～投資配分の機動的な変更など～

コロナのワクチン開発期待の急上昇を受け、ポートフォリオを大きく変更

米国の大手製薬会社がコロナウイルス感染防止に有効なワクチンを開発したとの報道、ひいては経済活動正常化への期待の高まりを受け、ファンドは2020年11月末にポートフォリオを大きく入れ替えました。これは、株式市場において割安株が評価されやすい市場環境が、一定期間継続するとの判断に依拠しています。結果、「AI/クラウドサービス」など、より高い成長が期待できるテーマの配分比率を引き下げた一方で、「消費の多様化」など、より安定的成長を見込むテーマの比率を引き上げました。ファンドは、成長特性の異なる複数のテーマを持つことにより、このような機動的な配分変更が可能になっています。

独自の成長ストーリーを持つ銘柄を引き続き保有

また、ファンドでは、景気サイクルに左右されにくい、独自の成長ストーリーを持つ銘柄に引き続き注目しています。例えばチェグ（組入9位、教育/働き方改革）は、オンラインの教育サービスを安価に提供しており、今後安定的に増加することが見込まれる教育支出による恩恵を受ける銘柄と考えます。

今回「優秀ファンド賞」を受賞させて頂きましたが、今後もより一層気を引き締め、ポートフォリオ全体の機動的運用と共に、複数の成長テーマから有望銘柄を発掘・調査するプロセスを継続することにより、引き続きファンドのパフォーマンス向上に努めてまいります。

Bコースの成長テーマ別配分比率の変更事例

2020年10月末		2020年11月末	
成長テーマ	純資産比	成長テーマ	純資産比
AI/クラウドサービス	19.7%	消費の多様化	20.1%
高齢化社会	18.0%	高齢化社会	18.5%
消費の多様化	14.1%	IoT/スマートモビリティ	14.0%
アウトソーシング	11.6%	AI/クラウドサービス	10.0%
教育・働き方改革	9.2%	フィンテック	9.1%
その他のテーマ	21.6%	その他のテーマ	24.6%
その他の資産	5.9%	その他の資産	3.8%
合計	100.0%	合計	100.0%

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
・四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

Bコースの組入上位10銘柄 (2020年12月30日現在)

銘柄	国	成長テーマ
ハネウェルインターナショナル	米国	IoT/スマートモビリティ
アドビ	米国	AI/クラウドサービス
マイクロソフト	米国	AI/クラウドサービス
アマゾン・ドット・コム	米国	AI/クラウドサービス
マスターカード	米国	フィンテック
インテュイト	米国	アウトソーシング
ASMLホールディング	オランダ	新技術
ファイブ・ピロウ	米国	消費の多様化
チェグ	米国	教育・働き方改革
スターバックス	米国	消費の多様化

国・地域は原則発行国・地域で区分しています。銘柄の成長テーマ分類は適宜見直しを行なうため、分類が変更になる場合があります。

上記は、ファンドの上位組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買等の推奨、また価格等の上昇や下落を示唆するものではありません。上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

「野村未来トレンド発見ファンド（愛称：先見の明）」

設定来の運用実績

Bコース（為替ヘッジなし）の基準価額の推移

期間：2015年11月27日（設定日）～2021年1月29日、日次



基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

Fund manager Voice ～運用責任者より～



▲ 当ファンドの運用を担当する、グローバル株式チーム
(写真前列中央：運用責任者の中山貴裕)

どうやったら“儲かるテーマファンドを作れるか”、議論を重ねてできたファンド

当ファンドは、弊社の運用部のメンバーで議論を重ね、考案・開発したファンドです。後述するように、私は運用者として企業の“光と陰”を目の当たりにしてきました。

例えば、1999～2000年頃のドットコムバブルの時期が強く記憶に残っています。当時私は日本の小型株を担当していたのですが、ITやバイオテクノロジー系の銘柄を中心に、キャッシュフローなどの“実態”が無いにも関わらず高値で買われている銘柄を目にしました。その後どうなったのかはご案内の通りです。このような経験から、単に“ニュースで盛り上がっているだけ”で特定のテーマ関連企業に投資することの危うさ、景気サイクルを乗り越えて成長する企業探しの大切さを身をもって経験しました。

その経験をもとに、当戦略（未来トレンド発見ファンド）を立案する際、そもそも複数の成長テーマを想定するというコンセプトの中心に据えました。1つのテーマに絞ってしまうと、その

中山 貴裕 シニア・インベストメント・オフィサー

運用調査経験年数：21年

- ・野村アセットマネジメント 東京本社にて運用
- ・運用部株式グループ 投資責任者（グローバル株式）
- ・「野村未来トレンド発見ファンド」運用責任者

▶ 好きなスポーツ

ゴルフ

▶ 普段の過ごし方

米国で何かあると、夜中3時に目が覚め株価をチェックする日々

テーマの賞味期限が終わった際に、どこにも逃げ場なくなるからです。市況に応じて“今はどのテーマが本当に買いなのか”を選別する仕組みを当ファンドは持っています。

コンセプトは実現化され、外部評価機関から高い評価を頂戴するステージに！

当初、このコンセプトは、“コンセプト倒れ”に終わる危険もありました。我々が判断を誤り、その時々成長テーマを上手く選択できない恐れがあったからです。

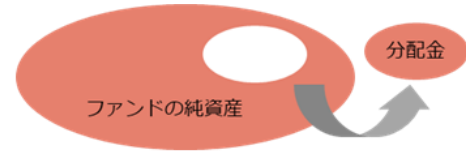
ただ現在では、その心配は杞憂に終わったと感じています。良好なパフォーマンスが何よりの証拠です。今回モーニングスター社から賞を頂いたり、その他ファンド評価機関や、実際の機関投資家のお客様からも高い評価を頂戴することで、我々のやってきたことが間違いではなかったのだと自信を深めつつ、かつ謙虚になりながら、日々お客様の資産を運用させて頂いております。

野村アセットマネジメントのWebサイトで当ファンドの紹介動画を公開しています▶



分配金に関する留意点

● 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。

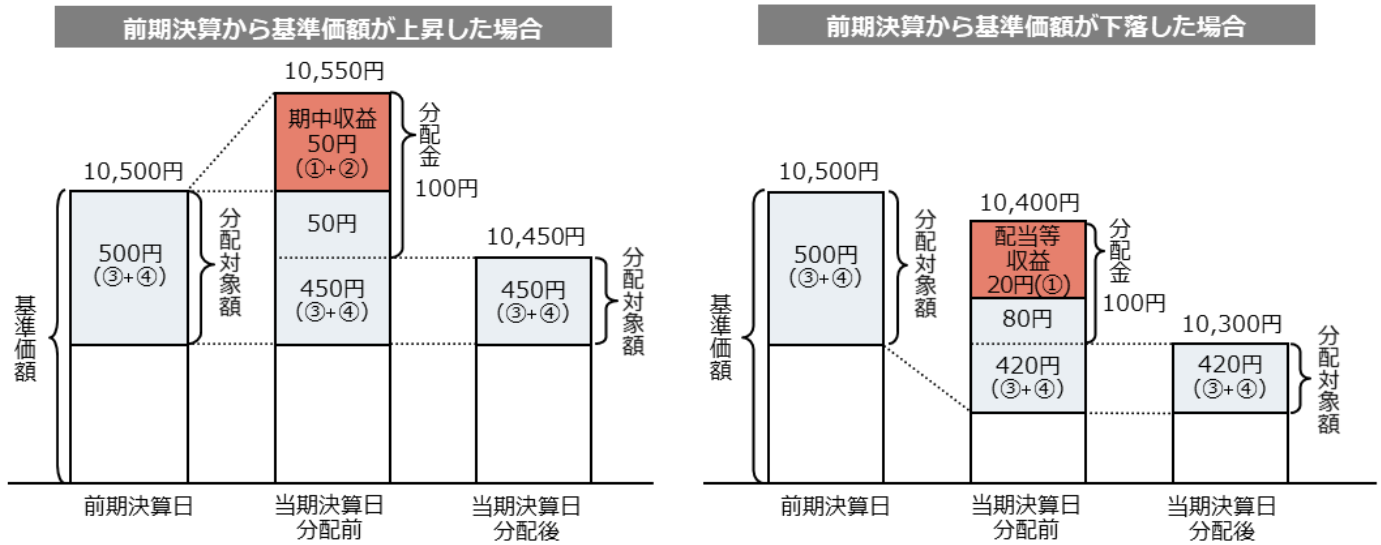


● ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

・ 計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

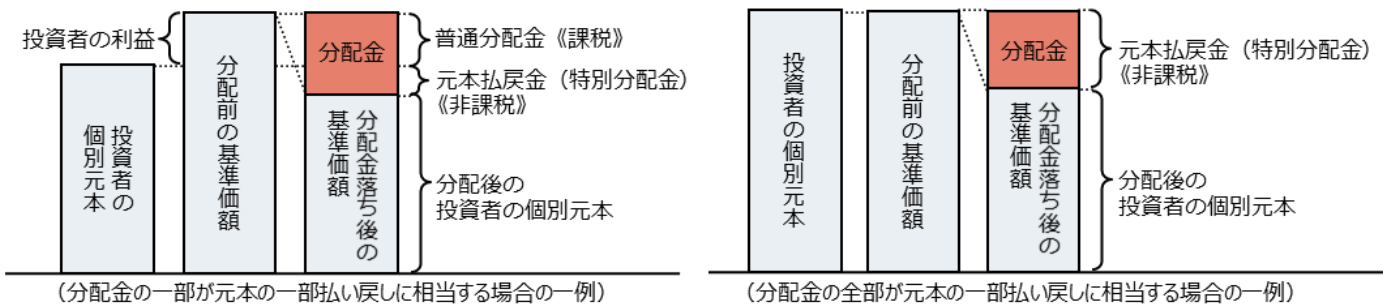
分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金④収益調整金です。



● 投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

普通分配金	分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本と同額の場合または投資者の個別元本を上回っている場合には分配金の全額が普通分配金となります。 (普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。)
元本払戻金 (特別分配金)	分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本を下回っている場合には、下回る部分の分配金の額が元本払戻金 (特別分配金) となります。

◆ 投資者が元本払戻金 (特別分配金) を受け取った場合、分配金発生時にその個別元本から元本払戻金 (特別分配金) を控除した額が、その後の投資者の個別元本となります。



分配金に関する留意点に記載の図はイメージ図であり、全ての状況について説明したものではありません。また、実際の分配金額や基準価額について示唆、保証するものではありません。

「野村未来トレンド発見ファンド（愛称：先見の明）」

【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 新興国を含む世界各国の株式(DR(預託証券)^{※1})を含みます。)を実質的な主要投資対象^{※2}とします。
 - ※1 Depository Receipt(預託証券)の略で、ある国の株式発行会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。
 - ※2 「実質的な主要投資対象」とは、「グローバル・マルチテーマ マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 償還金額等が企業の株式の株価に連動する効果を有するリンク債、金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株価指数連動型上場投資信託証券(ETF)ならびに不動産投資信託証券(REIT)および企業の株式の株価に係るオプションを表示する証券または証書も含まれます。
- 銘柄選定にあたっては、グローバルな視点で投資魅力のある中長期の成長テーマ[※]を複数選定し、関連する銘柄群を中心に利益成長に着目した銘柄選択を行ないます。
 - ※ 「新たな価値の創造」、「新興国へのトレンドの広まり」、「社会構造の変化」の観点から成長テーマの選定を行なうことを基本とします。
- ◆ 成長テーマは随時見直しを行ない、それに伴い組入銘柄の変更を行ないます。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。
- 「Aコース」「Cコース」は原則として為替ヘッジを行ない、「Bコース」「Dコース」は原則として為替ヘッジを行ないません。
 - ・「Aコース」「Cコース」は、原則として為替ヘッジ(先進国通貨等による代替ヘッジを含みます。)により為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。ただし、代替ヘッジによっても為替変動リスクの低減の効果が小さいあるいは得られないと判断した通貨については、為替ヘッジを行わない場合があります。
- ファンドは「グローバル・マルチテーマ マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 「Aコース」「Bコース」間および「Cコース」「Dコース」間でスイッチングができます。
- 分配の方針
 - ◆ Aコース、Bコース
原則、毎年11月14日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。
 - ◆ Cコース、Dコース
原則、毎月14日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。なお、決算期末の前営業日の基準価額(1万口あたり。支払済みの分配金累計額は加算しません。)が11,000円以上の場合は、分配対象額の範囲内で、別に定める金額の分配(注)を行なうことを目指します。

(注) 決算期末の前営業日の基準価額に応じて、下記の金額の分配を行なうことを目指します。

決算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口あたり、課税前)
11,000円未満	配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案して決定します。
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

- ・基準価額に応じて、分配金額は変動します。
- ・基準価額が左記表に記載された基準価額水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- ・分配金を支払うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。
- ・決算期末にかけて基準価額が急激に変動した場合等には、委託会社の判断で左記表とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。
- ・左記表に記載された基準価額および分配金額は、将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

* ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

「野村未来トレンド発見ファンド（愛称：先見の明）」

【投資リスク】

各ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込みメモ】

- 信託期間 2025年11月14日まで
【Aコース（為替ヘッジあり）】2017年6月2日設定
【Bコース（為替ヘッジなし）】2015年11月27日設定
【Cコース（為替ヘッジあり）予想分配金提示型】
【Dコース（為替ヘッジなし）予想分配金提示型】
2020年1月31日設定
- 決算日および収益分配 「Aコース」「Bコース」
年1回の決算時（原則、11月14日。休業日の場合は翌営業日）に分配の方針に基づき分配します。
「Cコース」「Dコース」
年12回の毎決算時（原則、毎月14日（休業日の場合は翌営業日））に、分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位（当初元本1口＝1円）
または1万円以上1円単位
（ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動つぎ投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。）
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 「Aコース」「Bコース」間および「Cコース」「Dコース」間でスイッチングが可能です。
※販売会社によっては、スイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休場日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ロンドン証券取引所 ・ニューヨーク証券取引所
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時（スイッチングを含む）および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

（2021年2月現在）

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%（税抜3.0%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 * 詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年1.705%（税抜年1.55%）の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額（ご換金時、スイッチングを含む）	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に依り異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

【当資料で使用した指数について】

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引後配当込み、円換算ベース）は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引後配当込み、米ドル建て）を基に委託会社が独自に円換算したものです。

- MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックスはMSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- S&P500株価指数は、スタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズエルエルシーの所有する登録商標です。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/
一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎ 0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

http://www.nomura-am.co.jp/



【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。